

広報車、巡回スタート

海コン協会 ターミナルも訪問



広報車と阪神港海コン協会役員ら

阪神港海上コンテナ協会（山口与嗣雄会長）は9月7日、大阪市此花区夢洲でコンプライアンス徹底を呼びかけた。

かける広報車（宣伝カー）を初めて披露、ターミナル運営会社への浸透解消の申し入れも行った。

広報車は「日産キャラバン」の左右と後部にコンプライアンスを呼びかける大きなパネルを取り付けたもので、待機時間や違法駐車（「データー収集中」）を強くアピールしている。

夢洲には夢洲コンテナターミナル（DICT）などコンテナターミナルが集積、国土交通省が運営する出入管理情報システムのビジター受付所も設けられている。ビジター受付所前での広報車お披露目には山口会長（近畿木材運輸）ら役員約10人が参加、報道陣に車



DICTに申し入れる山口会長（中央）ら

両の詳細などを説明した。

広報車はこの日から稼働、大阪港と神戸港を今後、隔週1回の頻度で巡回する方針。広報車前面には録画装置も備えられており、ターミナル付近での渋滞状況を記録してターミナルなどに改善を促す考えだ。

山口会長らは広報車お披露目のあと、DICTなどを訪れ渋滞解消を改めて文書で要請、荷待ち時間記録義務づけや長時間労働改善に向けた国交省など行政の動きを説明したうえで、搬出入短時間化への努力を求めた。山口会長が「渋滞解消に向けた話し合いの場

をつくってほしい」と要請したのに対してDICTの水城裕文取締役事業所長は「改善には努めているが、我々だけでは限界もある。協力したい」と心じ、行政も交えた協議の場が必要との認識で一致した。

両者で近く、メンバー構成や協議内容などの詰めの作業を行ったうえで、協議の場を設ける方針だ。